

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターマイム		
○保護者評価実施期間	令和8年1月28日	～	令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和8年1月28日	～	令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	メールや電話相談、乳幼児親子教室での発達相談、の相談など複数の相談経路を整備していることで、気づきの段階から支援につなげやすく、通所への早期接続が可能となり、保護者の不安軽減に向けた支援を実施している。	メール・LINE相談を取組み、NPO法人等と連携した複数の相談経路を整備し、保護者が相談しやすい環境づくりを意識的に進めることで、気づきの段階から支援につなげ、通所への早期接続と保護者の不安軽減を実現している。	相談対応の標準化と情報共有の強化により、多様な相談窓口で得た情報を一元化し、行政・保育園との連携を深めて早期発見と接続率を高めるとともに、オンライン相談や個別フォローを充実させて保護者の不安を軽減し、支援開始までの流れをより円滑にする体制づくりを進めている。
2	外部のPT・OT・看護師や大学・NPOとの連携により、専門的な知見を取り入れた質の高い通所支援を実現し、継続的な職員研修によって支援力を高めながら、医療的ケア児やハイリスク児にも対応できる高度な専門性を備えている。	外部のPT・OT・看護師の専門家に加え、大学やNPOとの研修連携を通じて専門的知見を継続的に毎月、取り入れ、職員の支援力向上と医療的ケア児・ハイリスク児にも対応できる体制づくりを意識的に進めている。	PT・OT・看護師の外部専門家との協働機会を増やして助言の質と頻度を高め、大学・NPOとの研修連携を体系化して最新の知識を継続的に取り入れつつ、医療的ケア児やハイリスク児への対応力向上に向けて共同支援やケース検討を充実させることで、東医センターの専門性を一層強化していく。
3	保育園・幼稚園・小学校・学童クラブなど約40か所への巡回支援や、保育士・教員への研修実施を通じて、通所で把握した子どもの課題を園や学校へ確実につなぎ、就学移行を見据えた切れ目のない支援と地域全体のインクルージョン推進を実現している。	巡回支援と研修を通じて園・学校との情報共有を密にし、就学移行を見据えた連携を強化することで、子どもの支援が環境の変化に左右されず継続できる体制づくりを意識的に進めている。	巡回支援の質と頻度を高めて保育所や幼稚園・学校との連携を計画的に強化し、研修等の体系化によって地域全体の支援力を継続的に高めながら、就学移行期の情報共有とケース検討を充実させることで、環境が変わっても支援が途切れない体制づくりを進めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職や担当者が限られているため、特定の職員に支援が集中し、児童の状態に応じた計画的な支援が十分に実施できない場面が生じている。たとえば、担当者の勤務時間がずれていて朝の打合せができなかったり、送迎対応で時間が取れず役割分担が曖昧になったりすることで、本来必要な専門的支援が後回しになるなど、支援の質にばらつきが生まれやすい状況が続いている。	専門職や担当者が十分に確保できないことで職員配置に偏りが生じ、勤務時間のずれや送迎対応による情報共有不足、役割分担の曖昧さが重なり、必要な専門的支援が後回しになりやすく支援の質と一貫性が不安定になっている。	職員配置の見直しや専門職の確保、勤務シフトや業務フローの改善、役割分担を視覚化して明確化を進めることで、支援の偏りや情報共有不足、属人化による専門的支援の遅れを解消し、計画的で安定した支援を提供できる体制を整えることが求められている。
2	個別支援計画や通常の児童記録について方法や情報整理が職員間で統一が難しいため、共有内容にばらつきが生じ、支援の継続性や連携の質に影響が出やすい。特に、担当者間での引き継ぎや保育園、幼稚園、学校との情報共有にムラが生まれやすい。	個別支援計画や通常の児童記録について方法・情報整理・引き継ぎ手順・保育園、幼稚園や学校との共有方法が統一されていないため、職員間で共有内容にばらつきが生じ、情報の抜け漏れや連携の質のムラにつながり、結果として支援の一貫性が確保しにくい状況となっている。	記録方法や情報整理、引き継ぎ手順、保育園や幼稚園、学校との共有方法を統一し、様式・ルール・共有項目を明確化することで、職員間のばらつきや情報の抜け漏れを防ぎ、連携の質を安定させて支援の一貫性を高めるシステムづくりが求められている。
3	当センターから巡回支援や専門性の高さといった強みが地域の保育園・学校・関係機関に十分に認知されておらず、相談や連携につながる機会を逃しやすい。結果として、地域全体の支援ネットワークの中で事業所の存在が活かされていない。	当センターからの巡回支援で得られる専門性や支援内容を地域へ発信する仕組みが整っておらず、担当者ごとに連携の質や説明内容にばらつきがあるため、センターの役割や支援の意図が外部に十分伝わらず、結果として地域ネットワークの中で存在が活かされにくい状況となっている。	当センターの専門性や巡回支援の成果をSNSなどで、継続的に発信できる仕組みを整え、連携方法や説明内容を標準化するとともに、地域向けの説明機会を計画的に設けることで、担当者によるばらつきを減らし、センターの役割を地域全体に安定して伝えられる体制を構築することが求められている。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援センターマイム

公表日 令和8年 3月 28日

利用児童

63歳 令和8年 3月 28日

回収数 25

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22	2	1	0	広くて綺麗です。 特性に合わせて配慮をしてくれています。運動の部屋もあり良いと思います。散歩などで外に行く機会も個人によっては増やしていただくと幸いです。気温や各自の体調など勘案いただき、外遊び(泥遊び、水遊び、砂場遊び等)増やせると思います。 子どもが増えたので、とてもいい施設的设计だと思います。 狭い空間があまり好きではないのか、悪化する事がもう少し広いスペースだと助かるなと思います。とはいえ、活動内容によっては十分なスペースとも言えるので、上記の回答です。 施設はよい	構造上、限られたスペースの中で、廊下やホール、遊戯室などの施設を有効に活用して支援を実施しています。また、今年度、中庭に寄贈していただいた人工芝を敷き、安全に外あそびを実施しました。今後児童数の増加もあり、更に施設の有効利用を進めます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	23	1	1	0	いつも丁寧な対応ありがとうございます。先生方もみな親切で愛情を持って接してくれています。 OT、STさんを増やしていただきたいです。上の年齢の子供だけではなく、全員が、個人の課題に合わせて療育の時間も持てると思います。 十分な先生がいらっしゃるといいです。 上の子の時は主体の先生と子供にそれぞれ一人ずつ付いていて、進行もスムーズでした。その環境もいいなと思いますが、部屋のスペースを考えると大人がもう1人増える手狭とも思えます。 一人に一人ついでと安心していきます。	令和7年度から公認心理士(非常勤)も配置しました。今後、外部専門家支援も継続して支援の充実を図って行きます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23	2	0	0	施設内に関しては保育施設も兼ね備えていることもあり、設備の配慮は十分かと思えます。活動空間に関しては手狭な分、余計なものはありません。 感覚で答えました。	・今年度、2階にもモニターによる映像配信については、通信環境等も含めて整備を進めました。 ・お子さん一人一人の安心・安全を最大限に重視して、お子さんが、主体的に行けるよう道具や、椅子など環境の改善を図ってまいります。 ・部屋の衛生についても十分、配慮して行きます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	24	1	0	0	広くて清潔感があり、綺麗です。 机での作業は十分かと思えます。体を動かすと、思い切り動くのは難しいので子供としては物足りないと思います。 きれいになっている。	
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	2	1	1	個人の特性や物事は対する理解度を踏まえてきめ細やかに指導していただきたいです。 職種にやや偏りを感じる、PTやOT、STなども増やして欲しい。 専門的かと言われると疑問が残る。 やはり病院の療育の方が作業療法士や理学療法士、言語聴覚士の方の専門的なアドバイスもあるような気がする。 あまり踏み込んだ療育とは感じない。 特性だけでなく本人の性格的な部分や成長過程も理解してくれていて合わせてくれていると感じています。	児童発達支援ガイドラインに沿って、お子さんの個々のニーズに合わせた支援となるように、児童発達支援計画を作成しています。今年度、外部専門家(OT,PTなど)を活用した支援の充実を図ってきました。今後、根拠を明確にしてお子さんの将来を見据えた支援について、個別支援計画等を活用して提示できるようにしていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22	1	0	2	公表しているプログラムが把握していなかった。	児童発達支援ガイドラインに沿った5領域プログラム児童発達支援計画に則り、お子さん一人一人のニーズに応じた支援を実施しています。また、お子さんの支援だけでなく、就学に向けた移行支援や、保護者研修会などの家族支援も実施してきました。今後、保護者の皆様には、支援内容について、丁寧わかりやすく根拠をもって説明して行きます。
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	23	1	0	1	丁寧に作成していただき、作成後の説明もわかりやすかったです。 話をよく聞いていただいて、目標設定もいただいた。 面談をしっかりと行い制作してくれています。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	24	0	0	1	計画はよくできていると思う。	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21	1	1	2	「これはどうなったのかな」という目標もあり、適宜振り返って指導していただいています。 ここはこうします、こういうときはこうしますとしっかりと説明していただいています。 感覚を感じにくい子供が多いクラスにいますが、そんな子供たちが感じやすい刺激を与えてくれているとは感じない。	・支援時間が限られている中においても、児童発達支援計画に基づき、お子さん一人ひとりのニーズに応じた支援を実施してきました。 ・個別支援計画を基本としつつ、活動プログラムが固定化しないよう留意し、障害のあるお子さんの成長や状態の変化に合わせて、支援プログラムの改善と工夫を重ねていきます。 ・外部専門家も活用しながら、より専門性の高い支援の充実を図ってまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23	2	0	0	本人の好きなものハマっているものをすぐに取り入れてくださったり、前回の活動で取り組みがマイチだったものは改善してくれたり、やり取りがスムーズになってからは本人に選ばせてくれたり、飽きない工夫が沢山されているなと思います。	
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	18	2	0	5		同じ建物内にあるエメット保育園とは、感染予防対策を十分に講じながら、各クラスとの誕生会や朝の体操(くるくるタイム)に加え、インクルーシブな取り組みとして毎月「センササープレイ」を実施しました。障害の有無や程度に関わらず、子ども同士がお互いを認め合う力を育む大切な第一歩となりました。 今後は、地域の保育所等と、日常の支援場面でも交流の機会をさらに広げ、インクルーシブな支援を一層推進していきます。
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	25	0	0	0	しっかり説明してくれています。	契約時には運営規程をご確認いただくとともに、今年度は給食費や制度改正に伴い、契約者の皆様へこれまで以上に丁寧な説明を行ってきました。今後も、制度改定等が生じた際には、保護者の皆様に対して分かりやすく丁寧な説明を行い、安心してご利用いただけるよう努めてまいります。	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24	1	0	0	わかりやすく丁寧に説明してくださりました。	児童発達支援ガイドラインに示されている、児童発達支援において提供すべき支援のねらいや内容を踏まえ、児童発達支援計画を示しながら支援内容の説明を行ってきました。今後も、保護者の皆様に対して支援内容をより丁寧かつ分かりやすく説明し、理解と安心につながるよう努めてまいります。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16	2	1	6		・今年度も引き続き、家族支援の講座として、「就学相談」に関する講座を3回実施しました。また、外部専門家による個別相談や、試行実施として、家庭訪問も実施して、子育てや就学について支援を行いました。また、対面の保護者会や研修会等、家族支援プログラムを定期的に実施しました。今後もセンターとして保護者支援や地域支援の充実を図って行きます。 ・今後、個別の家族支援プログラムやペアレント・トレーニングをて実施いたします。

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達について共通理解ができていますか。	25	0	0	0	毎回最近の様子などを話し合っています。	各職員間で情報を共有し、お子さん一人ひとりの状況から課題を明確にした上で、チームとして支援を進めてきました。今後も、お子さんの小さな変化や成長を見逃すことなく、ご家庭の様子と当センターの様子を丁寧に関わり、専門的な視点を踏まえながら将来を見据えたより良い支援につなげてまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23	2	0	0	もう少し機会が多くてもいいかなと思います。 15.16共なのですが、子どもが言葉を理解して大人の話している内容を聞いているなあ、嫌な気持ちになるかもなあと思うことなども自由時間を母子分離にしてください話せる配慮がされています。 逆に褒めたり、楽しかったエピソードなどは母子同室で話したり、子供にも親にも配慮がされてありがたいです。	今年度も引き続き、ご家族からのさまざまな相談に対して、相談支援専門員を中心に適切な助言を行い、家庭での子育てを含む「家族支援」に取り組んでまいりました。今後は、保護者面談の充実を図りながら、計画的に保護者支援を進めていきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	24	0	0	1	先生方皆丁寧で親切です。愛情を持って接してくださり、子どものことを理解しようとしてくださっている姿勢が伝わります。 子供の気持ちも十分理解したうえで、注意や促しをしてくれています。共感の嵐です。私の励みです。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	6	0	7	きょうだい児への対応などの勉強会興味あります。 保護者の支援はあると思いますが、兄弟向けはないかなと思います。	今年度、長時間の2つのクラス、短時間クラスで対面による保護者会を実施しました。特に重心クラスでは保護者の情報共有がなされました。また、保護者参観を合同で実施しながら、保護者交流を設定しました。今後、各クラスにおける対面による保護者会の複数回実施するなど検討して保護者連携を支援して行きます。また、今後きょうだいへの支援について、具体策を検討します。
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	23	0	0	2	対応は早いかなと思います。	今年度は、お子さんの状況について職員間で情報を共有しながら支援を進めてまいります。日程については調整のうえ対応いたします。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23	0	0	2	朝の受け入れ時、保護者からの他のお子さんの家庭の様子が聞こえてしまうので悪いなと感じる、また多く待たれるなど感じる十分に話しにくい。	今年度も、お子さん一人ひとりに合わせて写真などの視覚教材を活用し、情報の伝達を行ってまいりました。また、クラスだよりやクラス掲示、SNSなどを通して、保護者の皆さまへ必要な情報をお伝えしています。朝の受け入れ時、保護者の情報については、至急改善を進めます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	20	2	1	2	ホームページなどを見たことがない。	今年度は、マチコメールや限定動画配信を通じて情報発信を行ってまいりました。 また、おたよりやホームページに加え、インスタグラムの活用やLINE相談の開始など、SNSを取り入れながら、迅速かつ適切な情報伝達に努めています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22	2	0	1	20の質問と同様	写真や動画などの保管にあたっては、適切に管理するとともに、使用する際には事前に確認を行うなど、個人情報取り扱いには十分に注意してまいります。 また、朝の保護者の皆さまとの情報交換については、ご協力をいただきながら、より良い形となるよう改善を進めてまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	1	1	5	マニュアルはあるかと思いますが訓練は見たことがない。	今年度は、SLPセンターアークとして大規模災害を想定した訓練を全体で計画し、実施しました。 また、消火器訓練・不審者対応訓練・引き渡し訓練も実施し、危機対応力の向上に努めました。 今後は、避難訓練などの様子も掲示し、保護者の皆さまへ分かりやすくお伝えしてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	0	1	7		今年度は、大規模地震災害を想定した訓練を、マイムとエメットの合同で実施しました。また、新たに非常用電源を購入し、大規模災害への備蓄体制を強化しています。各クラスでは毎月避難訓練を行っていますが、今後も大規模災害を想定した訓練を継続して実施してまいります。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25	0	0	0	入り口の暗証番号は定期的に見直ししてほしい。ずっと同じ場合、関係者以外が知り得た際に悪用されないかきになる。	・事故（怪我等を含む）が発生した際には、改定した緊急時対応マニュアルに基づき、速やかに保護者の皆さまへご連絡いたします。併せて、事故発生時の状況や事業所が行った対応について、以下の項目を踏まえて丁寧に説明いたします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	23	0	0	2		・暗証番号については次年度、変更して保護者の皆様にお伝えします。 ・今年度、1階、2階の各部屋、フロアに防犯カメラを新設して、子どもさんの安全確保と緊急時対応の改善を図りました。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	23	2	0	0	マイムが大好きで、いつも行きたがっていて、マイムの日には出発がスムーズです。 比較的情緒不安定になることが多い。部屋にはいると崩れがちなので、空間があまり好きではないのか？	お子さんが楽しく安心して通えるよう、職員一同、日頃から環境づくりと支援に努めています。また、一人ひとりの将来を見据え、エメット保育園や関係機関と計画的に連携しながら、インクルーシブな支援の充実を図っています。専門的な知見を取り入れつつ、個々のニーズに応じた支援をさらに深く、安心・安全な環境のもとで支援を進めてまいります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	18	2	0	5	マイムが大好きです。 27の回答と同様、いい時もあれば嫌な時もある。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	3	0	0	いつも丁寧な支援をありがとうございます。感謝しかございません。 丁寧な説明や、子どもに対しての工夫も多く大変感謝しております。 作業内容はしっかり行ってくれていますが、子供が愚図る事が多く、しっかり作業ができない事も多く、どちらとも言いえない状況です。	地域の児童発達支援センターとしての役割を果たすべく、お子さまや保護者の皆さま、地域に向けて「発達支援」「保護者支援」「地域支援」を計画的に実施してまいりました。今後も、これらの取り組みをさらに充実させ、より良い支援の提供を目指してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和8年3月28日			
児童発達支援センター・マイム					
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12	3	<p>部屋を区切るなどして最大限の工夫をしている。</p> <p>広さは十分に確保されている。子どもたちが楽しめる設備としての工夫がされている。</p> <p>利用児に合わせて広いスペースの確保と状況に合わせて間仕切りが出来るようになっている。</p> <p>木造建築が故の断熱が入ってきやすい問題があるため、窓ガラスや引き戸など断熱を予防できるとよいと思う。</p> <p>重心のクラスが人数が7人となるとスペースが不足していると感じる。</p> <p>規則的に適切であると思うが、特性を考えると仕切りが必要。</p> <p>1日の利用人数が多くなると活動や寝る場所の確保が難しい状況がある。環境整備などもしているが、転倒リスクなども踏まえた整備が必要。</p> <p>収納や遊ぶスペースが少ない。物がごちゃごちゃしている。</p> <p>朝の余だに使う部屋がない状態。</p> <p>以前あった別事業のスペースも活用できているため。</p> <p>適宜、子ども人数によって、多分た部屋を移動するなど、環境調整をしているように見える。</p>	<p>児童数の増加に伴い、各部屋や施設より有効に活用するため、配置換えなどの改善を行いました。また、エメット保育園とマイムの一体的な運営を見直し、共有スペースの在り方についても検討を進め、必要な改善を図っています。今後も、児童数の増加や障害特性に応じて、安心・安全な環境整備を継続的に進めていきます。</p>
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	12	3	<p>国の定めてある基準より多く配置されているため。</p> <p>職員の出入りが多いので、もう少し緩やかになると、マイムを経験している職員が増え、新たな取り組みでも対応できる事が増えると思う。</p> <p>職員数が見足りないときは他クラスから来てくれるのでも助かる。</p> <p>利用者に合わせて個別対応や集団で遊ぶ時間で遊べるように配置されている。</p> <p>いい支援が出来る環境ではない。</p> <p>安定して出動できる職員が多く欲しい。</p> <p>利用定員は満たされているが、職員が休みの時の対応が難しい時がある。できれば他クラスからいつでも応援を貰えるよう、定期的な職員のサポート体制ができてほしい。</p> <p>子供の頭数に対しての職員の配置人数は数字だけで見ると適切であると思うが、特性に合わせた支援をするためには人員が足りない日もある。子育て世代の職員が全体の割合に対してかなり多いので、当日出勤者がでると回らない。子育てしながら働きやすい環境を作ること、働く場所があることは勿論大切だがおもちが、他の職員にそのノウハウを教えることも必要でいいと思う。</p> <p>人材採用の際には他クラスを希望した方が多いので、最初(立ち上げ時)に想定していた使用人数ではなく、1日に預かる子供の人数も最初とは全く異なっている中でやりくりしている。</p> <p>部屋の前にマークをついたり、写真をとって一覧にするなどの工夫によってわかりやすくなっている。</p> <p>利用児が多くなると、遊ぶスペースが限られ、遊びを我慢しなくてはならない利用児も増えてくる。雨の日でも遊べる広いスペースのようなものが、いつでも使えれば、遊びの幅も増えるのだと思う。</p> <p>エレベーターや障害のない設計になっている。</p> <p>転倒リスクを考えた環境整備ができていない。保護力パーをつけるなどを適宜行う必要がある。手洗い場(共有)など子供が手を洗いにいく作りになっている。</p> <p>床が硬い、マットが足りない。</p> <p>にじみ防止マットの仕切りが閉まらなくなるのはすぐに改善が必要であると思う。</p> <p>手が届いた非常動さんが掃除などをして助かる。</p> <p>清潔ではあるが、木の湿取りを行っていない。扉が重い開閉しにくいなどの問題が多く残っている。清掃員が頑張って下さっているので生活空間の綺麗はキープされている。</p> <p>毎日清掃を行っている。加湿機能設置等もあり、気温にも配慮して環境調整を行っている。</p> <p>整備はしているが、工夫の余地はあると思う。</p>	<p>・現在、産休等による一時的な欠員はありましたが、職員数の定数は維持できています。児童発達支援センターの一元化により、職員配置が柔軟になり、児童の発達や障害特性など、支援を行うための環境改善について調査し、計画的に取り組んでいます。また、常勤職員と非常勤職員が十分に情報共有できる体制を整え、支援の質の向上を図っています。</p>
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構成された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切にされているか。	11	4	<p>部屋の前にマークをついたり、写真をとって一覧にするなどの工夫によってわかりやすくなっている。</p> <p>利用児が多くなると、遊ぶスペースが限られ、遊びを我慢しなくてはならない利用児も増えてくる。雨の日でも遊べる広いスペースのようなものが、いつでも使えれば、遊びの幅も増えるのだと思う。</p> <p>エレベーターや障害のない設計になっている。</p> <p>転倒リスクを考えた環境整備ができていない。保護力パーをつけるなどを適宜行う必要がある。手洗い場(共有)など子供が手を洗いにいく作りになっている。</p> <p>床が硬い、マットが足りない。</p> <p>にじみ防止マットの仕切りが閉まらなくなるのはすぐに改善が必要であると思う。</p> <p>手が届いた非常動さんが掃除などをして助かる。</p> <p>清潔ではあるが、木の湿取りを行っていない。扉が重い開閉しにくいなどの問題が多く残っている。清掃員が頑張って下さっているので生活空間の綺麗はキープされている。</p> <p>毎日清掃を行っている。加湿機能設置等もあり、気温にも配慮して環境調整を行っている。</p> <p>整備はしているが、工夫の余地はあると思う。</p>	<p>・建物の基本的な構造は変更できませんが、児童の安心・安全と成長を支えるための環境構造化を進め、必要な物品については予算を確保しながら、中長期的な改善に取り組んでいます。児童の障害特性に応じたカード掲示、バリアフリー化、情報伝達の工夫など、環境面の配慮も計画的に整備しています。建築上、緊急の対応が難しい箇所については、代替手段を講じながら運用してきました。また、児童の安全確保と防犯対策の強化を図るため、1・2階の各部屋およびフロアに監視カメラを設置し、安全性の向上に努めています。</p>
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	14	1	<p>ホワイトボードを用いて使用するクラスがわかりやすい。</p> <p>状況によって部屋が足りないことはあるが、時間で区切るなどして工夫している。</p> <p>部屋の数は限られているが、ホワイトボードなどを活用しながら工夫して使えていると思う。</p> <p>一覧表ややりとりで空いている部屋を使い合っている。</p> <p>朝礼等でその日の予定を、報告することで、部屋の使用など共有することができている。</p> <p>小さい部屋もあり、個別対応も可能な環境である。</p> <p>こういった個室はないが、スヌーズレンなどを使っている。</p> <p>空間が少ない。</p>	<p>・部屋の使用後の清掃については、全職員で周知しています。</p> <p>・今後、更に児童の障害特性に応じた環境整備を実施して行きます。</p>
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13	2	<p>ホワイトボードを用いて使用するクラスがわかりやすい。</p> <p>状況によって部屋が足りないことはあるが、時間で区切るなどして工夫している。</p> <p>部屋の数は限られているが、ホワイトボードなどを活用しながら工夫して使えていると思う。</p> <p>一覧表ややりとりで空いている部屋を使い合っている。</p> <p>朝礼等でその日の予定を、報告することで、部屋の使用など共有することができている。</p> <p>小さい部屋もあり、個別対応も可能な環境である。</p> <p>こういった個室はないが、スヌーズレンなどを使っている。</p> <p>空間が少ない。</p>	<p>当センターは基準を満たした設置となつていますが、雨天時などはエメット保育園と部屋を共有しながら活用しています。今後は、クラスの状況に応じて個別支援用の部屋に加え、体を動かす活動についても、廊下・ホール・遊戯室などを活用し、SLP全体で工夫しながら取り組んでいます。</p>
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	7	<p>日々の話し合いで意見を出し合い、会議でも議題にあげることができている。</p> <p>日々の振り返りはしているが、児童についての話し合いがあまりできていない。就業時間の中で話し合う時間があまり取れないので仕組み作りが必要。</p> <p>なかなかそんな余裕はない気がする。</p> <p>職員全体が参画してるとは思えない。</p>	<p>職員が経営的視点を持ち、PDCAサイクルを意識した業務改善に積極的に取り組むとともに、当センターの運営に当事者意識をもって参画できるよう、対面での対話の機会を設けています。さらに、新たにリーダーを配置し、役割分担を明確にすることで、組織体制の強化と業務改善を進めていきます。</p>
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	2	<p>保護者との話は日々のお迎え時などに行うことができている。</p> <p>内容もクラスで共有することができている。</p> <p>半期にモニタリングしているが、もう少しご家族と話す機会があった方が関係構築の構築やお子さんの家での様子がわかるかと感じている。送迎の短い時間しか話せないで工夫がある。月一回の電話など。</p>	<p>・モニタリング等で保護者のニーズを聞き取り、支援の改善を実施しています。また、保護者と外部専門家の個別相談や秋学期に向けての研修会、家庭訪問(試行)も実施しました。</p> <p>・今年度も、事業所向け自己評価表及び保護者向け自己評価の結果を合わせて、事業所として自己評価を行いました。その結果による評価の改善及び改善の内容を、事業所として自己評価を行いました。</p> <p>・次年度は、第三者評価や自己評価(保護者)による外部評価を参考に、経営計画を基本に改善を図っていくとともに、SNSなどを活用したり、保護者の意見を聞ける場を設ける等、保護者支援を進めます。</p>
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	4	<p>振り返りはしている。月1回のミーティングなど。もう少し時間があると良いが、時間確保が難しい。</p> <p>研修会が他職員の意見を聞く良い機会になった。</p> <p>クラスの会議、各グループの会議を設けて話し合うことができている。</p> <p>個別で聞き取り(面談)の時間を設けてくれている。</p> <p>第三者評価などを通して意見を確している。</p> <p>職員の意見を伝える機会はあるが、それが業務改善に反映されてるとは思わない。</p> <p>意見を出しても改善が難しいことが多い。</p>	<p>・今年度も昨年度に引き続き、外部専門家を活用した研修会や保護者支援を含めた研修を実施しました。また、動画によるオンライン研修も実施しました。</p> <p>・今年度、初めて対話と共通理解を重視した、ワークショップ研修を実施しました。次年度は、学校や連携機関の視察や専門性向上に向けた研修も実施して行きます。</p>
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	13	2	<p>可能な範囲で行なっている。</p> <p>外部支援専門員の方を招いて、業務に対するアドバイスをもらい、記録に残し続けている。</p> <p>問題点について会議で話し合う場を設けている。</p> <p>評価は行っているが、業務改善に繋がっているかは分からない。</p>	<p>第三者による外部評価を実施し、支援や業務改善につなげています。また外部講師による、支援等の改善を図っています。評価項目についてHPなどで明確に周知し、組織的な業務改善に反映させて行きます。今後、職員には十分周知を図り、職員一人ひとりが主体的に改善できるように支援して行きます。</p>
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	14	1	<p>オンライン研修の開催が一定期間あるため、誰でも受講しやすい。</p> <p>オンライン研修や外部支援者研修を設けている。全ての職員が外部の研修にも行く機会を設けて欲しいが現状は特定の人が行っていない。</p> <p>一応あるが、みんなが受けられているわけではない。</p> <p>研修機会があるが定期的な場があると良い。</p> <p>数は最小限であるが、研修の情報もいただけるようになっている。</p> <p>受講する時間が業務内にはないため、各自の判断(私用の時間)となっている。</p>	<p>・今年度も昨年度に引き続き、外部専門家を活用した研修会や保護者支援を含めた研修を実施しました。また、動画によるオンライン研修も実施しました。</p> <p>・今年度、初めて対話と共通理解を重視した、ワークショップ研修を実施しました。次年度は、学校や連携機関の視察や専門性向上に向けた研修も実施して行きます。</p>

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14	1	概ね行っている。 ご家族とのモニタリングと担任と発覚者と話し合いながら作成し取り組んでいる。	・今年度は、児童一人ひとりの客観的なアセスメントを基に、中心的な課題や保護者のニーズを明確にする個別支援計画の作成手順を整備し、実践と照らし合わせて評価を行いました。また、当センターの5領域を基礎とした支援プログラムを作成し、個別支援計画との関連を明確にして適切な支援を実施しました。来年度は、5領域とのつながりをより明確にし、根拠に基づく個別支援計画の作成、実施を推進するとともに、家族支援・地域支援に関する組織的研修を短時間で実施していきます。 ・次年度は、標準化された対応行動アセスメントツールも併用し、児童の個別支援内容をより明確にします。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	14	1	共通のアセスメントツールなどを使うと評価基準が統一されわかりやすいと思う。 統一したアセスメントはなく、個人やグループ、専門員の見解に委ねてしまっているところもある。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15	0	作成した個別支援計画をクラス内で回覧し、修正訂正を繰り返し作成に当たっている。 クラス会議を通して共通理解で支援できるように心がけている。 話し合いの中で作成している。	児童発達支援計画は個人ファイルに貼付し、保護者と職員が常に確認できる体制を整えています。非常勤を含む職員間で共有しやすい仕組みを設け、計画に基づく支援を実施しています。職員数により十分に対応できない部分もありますが、計画作成時には関係職員が協議し、子どもの最善の利益を踏まえて検討しています。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	2	親御さんにも毎回確認してもらえらるうに個人ファイルに貼付している。個人ファイルということ、支援前には必然的に目に入り、確認することができている。 非常勤のスタッフも多量で、できる限り共有できるように工夫していると思う。 ファイルをつくり、いつでも閲覧できるようにしている。 出来ている部分もあるが職員数の問題で出来ないところもある。	
	15	子どもの発達行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	8	記録をつけている。 記録をしてくれるようになるにつれ、少しずつ環境が整ってきた気がする。 標準化されたツールを活用していないので、子どもの発達把握に時間がかかる。 アセスメントツールを今後導入していきたい。 標準化されたツールとなるものがあるかわからない。 共通化されたアセスメントツールはない。(障害や特性、状態も大きく違うため難しい)	PECSの活用が進み、環境整備が徐々に整ってきています。一方で、標準化されたアセスメントツールを十分に活用できておらず、児童の発達把握に課題があります。障害特性が多様で共通のツール選定が難しい状況ですが、今後は発達行動状況を把握するために、標準化されたフォーマルなアセスメントと日々の行動観察によるインフォーマルなアセスメントを併用し、より確かな支援につながっていきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14	1	保育所等訪問支援等での連携力を入れている。また、家族へのケア（家庭訪問）などもおこなっている。	児童発達支援計画には、ガイドラインで示されている本人支援・家族支援・移行支援・地域支援の視点を踏まえ、児童の支援に必要な項目が適切に設定されています。その上で、児童の状況に応じた具体的な支援内容を明確にし、計画的に支援を実施しています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	2	クラス内でさらに分散化されたグループで話し合うことができる。 プログラムは立てているが特定の人がしているため、雇用形態関係なくみんなで考えられると良い。 一部の職員が立案しているため、負担が偏っていると感じる。他職種がそれぞれの業務を負担しているため、業務内容が見えづらく、チームで立案することの提案が現実的ではない。お互いの業務を見える化して、負担が偏らないように改善したい。	活動プログラムはクラス内の小グループで話し合いながら立案し、専門員の助言も取り入れて内容の工夫を行っています。一部の職員に負担が偏る課題がありますが、業務の見ええ化を進め、よりチームで立案できる体制づくりを検討しています。また、児童の特性に応じてプログラムを固定する場合と変更する場合を使い分け、難易度調整や保護者の意見も反映しながら、固定化を防ぎつつ個々に応じた支援を行っています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14	1	話し合いや専門員のアドバイスを取り入れて様々な内容を取り入れている。 時と場合、また支援する子供による、プログラムをある程度固定しつつ、難易度を調整する場合もある。毎回固定が安心に繋がる子供もいるので、状況を見て個々に寄り添った支援を行っている。また、親御さんに取り入れて欲しい活動はないかなど振り返りの時間を活用して聞き取りを行っている。中には、反復で何度も繰り返し実施して欲しいという声もある。 固定化してある方が良い場合は固定化している。状況に応じて内容を変えている。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	15	0	他クラスの協力を経て、個別で関われる時間を積極的に使っている。 個別活動を日常化する為には時間と人手が必要。	児童の状況に応じて、他クラスの協力も得ながら個別で関われる時間を確保し、個別活動と集団活動を適切に組み合わせる支援をしています。個別活動の充実には時間と人員の確保が課題ですが、可能な範囲で個々に応じた支援を進めています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12	3	直接話せない場合は、記録を活用し記録に申し送り事項を記載している。 時間は短いができている。 チームで支援しているが、勤務時間がずれているため、朝に予定の確認などを行える時間がない。 時間が作れない。送迎等で朝/夕が多い。 リーダーとそれ以外になっている。難儀は変えるはあるが、もう少し役割を決めてもいいと考える。本来の資格の仕事ができず業務に偏りがある。	支援開始前の打合せは、直接話せない場合でも記録を活用して申し送りを行い、短時間ながら連携を図っています。勤務時間のずれや送迎対応により朝の確認が難しい課題はありますが、チームで支援できるよう工夫しています。現在はリーダーごとの体制で臨機応変に対応していますが、役割分担の明確化や業務の偏りの改善が今後の課題です。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	15	0	長時間療育のため時間についてはあまり確保が出来ないように見える。 毎日行っている。就業時間を越えてしまうのでそれは課題である。 もう少し活動内容についての振り返りができると良い。	支援終了後の振り返りは毎日実施しており、直接話せない場合は記録を用いて気づきや申し送りを共有しています。長時間療育により十分な時間が確保しにくいことや、就業時間を越える場面があることが課題ですが、より充実した振り返りが行えるよう改善を検討しています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15	0	記録が膨大になっている中、勤務時間を調整して頑張っていると思う。 記録はあるがまだ足り足りない。	日々の支援記録は膨大になる中でも、勤務時間を調整しながら継続して取り組んでおり、支援の検証や改善に役立っています。ただし、記録が十分とは言えない場面もあり、今後の改善が必要です。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0	少し期間をすぎずしまが、必須の回数以上に行うことができる。	定期的なモニタリングは一部で期間を過ぎることもありますが、必須回数以上の実施ができおり、その結果を踏まえて児童発達支援計画の見直しを適切に行っています。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	15	0	必ず担任が参加（必要時はプラスして発覚者）が参加できるようになっている。	障害児相談支援事業所や関係機関の会議には、児童の状況をよく理解している担任が必ず参加し、必要に応じて児童発達支援管理責任者も加わる体制を整えています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14	1	必要時には連絡をとって情報共有などの連携をとっている。 病院等やリハビリ等とでも情報共有したい。何を作成しているか、どんなリハをしているか把握しづらい。	東村山市の障害者自立支援協議会などを活用して、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育などの関係機関と連携し、必要な情報共有や協働支援が行える体制を整えています。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	制限をかけることなく、保護者の要望に添えるように努めている。	今年度は併行利用や移行に向けた支援を進める中で、卒園生保護者や地域の先輩保護者による就学情報の共有会や、特別支援学校の見学に関する見学や研修会を実施し、積極的に情報発信と共有を行いました。また、特別支援学校の見学も行った。今後は市内の小学校や特別支援学校、保育園等とも連携し、情報共有と研修をさらに充実させていきます。	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	就学支援シートの記入や、見学の対応、聞き取りの対応などおこなっている。		
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	9	6	あまり行われていない。 もっと地域連携をした方が良いと考える。他事業所や病院など。 もっと他の自発と交流したい。	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所と連携し、NPO子育て支援機関や東村山市とも協働しながら、情報共有や支援に関する研修を実施するなど、地域全体の質の向上に向けた取り組みを行っています。	
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	14	1	摂食指導やPTOTの専門職、姿勢、大学教授など様々な専門員に定期的に来て頂き指導いただく機会がある。 外部支援員が入っているため、助言を受ける機会を設けている。外部研修は配置の問題で全員行くことは難しい。 クラスによって差異があるとおもう。希望していても曜日や時間が合わないなどの理由で、なかなかその対象にならないのがとても残念。	外部研修については、配置や勤務時間の都合から全員が参加することが難しい場合がありますが、摂食指導、PT・OT、姿勢の専門職、大学教授など多様な専門家から定期的な助言を受ける機会を設けています。また、外部支援員からの助言も取り入れ、児童の障害特性に応じた専門性向上に努めています。さらに、内部研修やOJTを通して日々の支援の中で学びを共有し、職員間で専門性を高める取り組みも継続しています。	
30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	8	7	センター長が参加している。 協議会等の会議に出たこと無し。 分からない。	東村山市自立支援協議会に年2回参加し、地域や市と協力して企画・運営するなど、地域の関係機関との連携を進めています。また、自立支援協議会・相談部会と協力して、児童発達支援センターの役割について情報発信を行いました。今後もセンターとして積極的に情報発信と地域との共有を進めていきます。	

関係機関や保護者との連携

保 護 者 へ の 説 明 等	31	(21は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイザーや助言等を受けられる機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	9	6	クリスマス会に参加させてもらった。	保育所等訪問支援を年間60回実施し、保育園・幼稚園・小学校・学童クラブなど約40所を巡回することで、地域の児童との関わりや交流の機会を確保しています。また、保育士・教員・学童支援員に対してインクルーシブ保育・教育に関する研修を行い、地域全体で子ども同士の関わりを支える体制づくりに取り組んでいます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	14	1	毎日の送り迎えの時に話せることができている。 振り返りの時間に聞き取りをしている。 リアルタイムな課題の共有までできているかはわからない。仕組みは必要。	日頃からオンライン相談会、保護者交流支援、保護者個別面談会、乳幼児教室後の相談（年間18回）などを通じて、保護者と児童の状況を継続的に共有し、発達の状況や課題について共通理解を深めています。また、障害児を育てる保護者同士の交流支援や、医療的ケアが必要な家庭への相談支援も行っています。さらに、各クラスの保護者会や卒園生交流会（ホームカミングデー）を実施し、家族が参加できる学びと交流の機会を広げています。今年度からはLINE相談を開始し、家族が相談しやすい環境づくりを進めています。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	4	出来るというと思う。 ペアトレはできていない。	
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	0	契約時やモニタリング、保護者会で伝えることができています。	運営規程や利用者負担、制度改定に関する内容については、保護者の皆様へ丁寧な説明を行っています。今年度は制度改定への対応に加え、当センターで作成した「5領域の支援プログラム」についても保護者向けに説明を実施し、支援内容の理解促進に努めました。今後も、制度等の改定に応じて契約書類を含む必要な情報を分かりやすく伝え、保護者の皆様が安心して利用できるよう丁寧な説明を継続していきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最高の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15	0	保護者と面談し説明の上でとり行うことができています。	児童発達支援計画の作成に際しては、児童や保護者の意思を尊重し、児童の最高の利益を優先して考慮しています。保護者の意向を確認する機会を確保し、計画内容を示しながら支援内容を説明したうえで、児童発達支援計画への同意を得ています。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	15	0	示しながら行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14	1	客観的に見て、子どもの支援に忙しい中、スタッフの人たちがよく時間を作ってくれていると思う。 必要時には保育所内で行ったり、家庭訪問を実施している。 今後、機会を作る必要性あり。	日頃から保護者の子育ての悩みや相談に適切に応じられるよう体制を整え、こどもの支援で多忙な中でも職員が時間を確保して面談や助言を行っています。必要に応じて保育所訪問や家庭訪問も実施し、多忙や地域と連携した支援に努めています。また、父母の会の活動支援、保護者会の開催、保護者が集まれる場の提供、ホームカミングデーの実施など、保護者同士の交流機会を設ける取り組みも行っています。また、同士の交流の機会づくりにも取り組み、クラス担当や発達支援、相談員などが参加して保護者の声や意見を聴き取りながら支援を行っています。こどもや保護者からの相談・申し入れには迅速かつ適切に対応できるよう体制を整備し、周知も行っていきます。今後は、相談や交流の機会をより計画的に確保し、保護者が参加しやすい環境づくりをさらに進めることが課題です。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14	1	保護者会の開催や、保護者の集まりの場の提供など行っている。 ホームカミングデーの開催。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	0	クラス担当や発達支援、時に相談員なども参加して聞いている。	
	41	定期的に通信等や発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14	1	クラス便りの発行をしている。SNSのチームも頑張っており、最近行うことが出来るとも良いと思う。でもインスタだけでは中々広まらないからTikTokが1番みんなが見れるのではと思う。 体制を整備している段階。	クラス便りの発行により、日々の活動や行事予定、連絡事項を定期的に保護者へ伝えていきます。また、ホームページに加えてSNS（インスタグラム）を活用した情報発信を行い、センターの取り組みや活動の様子を分かりやすく発信していきます。さらに、地域向けの無料LINE相談を開始し、保護者が気軽に情報を得たり相談できる環境づくりを進めています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	0	写真提示の際はアンケートなどで了承を得るようにしている。	個人情報の取扱いについては、運営規程や内部マニュアルに基づき、写真・動画・記録物の管理や情報共有の際に十分な配慮を行っています。利用目的の明確化、必要最小限の情報管理、外部への提供時の確認手続きなどを徹底し、職員間でも適切な取扱いに関する共通理解を図っています。また、保護者への説明や同意の取得を丁寧に行い、個人情報保護に関する意識向上にも努めています。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	16	0	言葉以外でもみでわかる工夫を行っている。	児童一人ひとりのコミュニケーション手段に応じた支援を重視し、PECSをはじめとする意思伝達カードや視覚的支援ツールを積極的に活用しています。活動の円滑化や選択肢を視覚化することで、児童が自分の気持ちや要求を表現しやすい環境を整えています。また、言葉表現が難しいこどもに対しては、カードの提示や交換を通じて意思決定の機会を保障し、安心して参加できるよう配慮しています。保護者に対しては、視覚的な情報資料や写真付きの連絡手段を用いるなど、理解しやすい形で情報を提供しています。これらの取り組みにより、児童と保護者双方が安心して意思を伝えられる環境づくりが進んでいます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	7	常にオープンな施設ではあると思うが、地域に対しての当事業所の認知が少ない。何を行って行く施設なのか理解してないと思われるため、施設の用途など地域に周知出来る方法があればいいと思う。 もっとやるべきかと思うが重なるクラスがあるので難しいか？ まだできていない。	事業所は地域に開かれた運営を目指しているが、現状では地域住民から当事業所の役割や活動内容の認知が十分ではなく、行事の招待などの取組はまだ実施できていない。重なる身障児のクラスがあることから配慮も必要であるが、施設の目的や活動を地域に周知できる方法を検討し、地域とのつながりを広げていくことが今後の課題であります。
	非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13	2	警報や消防を扱って行うことができています。 マニュアルはあるが、全職員が認知しているかは不明、更新や指示など職員の知識として研修する機会があってもよいと思う。
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15	0	年に2回総合訓練を実施している。	感染症対策マニュアルおよび業務継続計画（BCP）を策定し、法人との連携体制を確認したうえで、非常災害の発生に備えた定期的な避難・救出等の訓練を実施している。
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を把握しているか。	15	0	契約時の聞き取りで行っている。また看護師による聞き取りでより細かい内容を把握できている。	委託医師および主治医から、契約時に服薬状況、予防接種歴、てんかん発作の有無など、こどもの健康に関する重要事項を必ず確認しています。
48		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15	0	医師の指示をもとに栄養士と話し合せてできている。	今年度も医師の指示書の有無を確認して、食物アレルギーなどに対応しています。
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14	1	まだできていないと思われる。	当事業所では、安全計画を策定し、事故発生時の緊急搬送訓練や防犯訓練をはじめ、安全管理に必要な研修・訓練を計画的に実施しています。これらの取組により、安全管理が十分に確保された環境のもとで支援を行っています。また、児童の安全確保に際して家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づいた取組内容や緊急時の対応方法について、保護者へ定期的に周知しています。面談やお便り、個別説明等を通じて情報共有を行い、家庭と事業所が共通理解を持って児童の安全を守れるよう努めています。
50		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14	1	自分がよく理解できていない。	
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	4	ヒヤリハットを作成し、朝のミーティングで他クラスにも共有することができている。 上層部だけでなく内容が職員に周知されていない。 クラスで完結する事が多く、センター全体で共有は出来ていない。 あまりできていない。 ヒヤリハットはあるが、全体的に共有されているかは不明。	当センターでは、ヒヤリハット事例を作成し、朝のミーティングで全クラスに共有することで、再発防止に向けた情報共有と意識づけに取り組んでいます。しかし、現状では一部の職員への周知が十分でない場面も見られ、共有方法や伝達の徹底に課題があります。今後は、記録の提示や振り返りの場の確保など、全職員が確実に把握できる仕組みを整え、再発防止策の実効性を高めていきます。
52		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	0	映像での研修となるが、日々の中でどのように防犯の対策がとれているかは不明。	虐待防止に向けた職員の理解と対応力を高めるため、研修動画の視聴や職員アンケートの実施など、継続的な研修機会を確保しています。これらを通じて、虐待の早期発見や適切な対応に必要な知識の定着を図っています。さらに、今年度からは支援場所を含めた監視カメラの設置を進め、児童の安全確保と職員の業務の透明性向上に取り組んでいます。これらの対策により、虐待防止に向けた体制整備を強化し、安心して利用できる環境づくりを推進しています。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13	2	映像での研修となるが、日々の中でどのように防犯の対策がとれているかは不明。	当センターでは、身体拘束がやむを得ず必要となる場合について、組織として明確な判断基準を定めています。身体拘束は、児童の生命・身体の安全を確保するために、緊急かつ他に代替手段がない場合に限り、最小限の範囲で実施することを原則としています。これらの判断基準や対応方針については、事前に児童および保護者へ十分に説明し、理解と同意を得たうえで、児童発達支援計画に記載しています。また、身体拘束が生じないよう、環境調整や支援方法の工夫を行い、予防的な取り組みを継続しています。	